

北九州市立学校の校長及び教員としての資質の向上に関する指標

資質	ステージ0	ステージ1	ステージ2	ステージ3	ステージ4	
	【教職準備期】	【教職基礎形成期】	【教職資質向上期】	【教職資質充実期】	【教職資質発展期】	
	教職現場での実践的課題を見直し、求められる資質の基盤を形成する。	チーム学校の一員として学級担任や教科担当を担う。	指導力を発揮し、ミドルリーダーとして学校運営に参画する。	高い指導力を発揮するとともに、重要な校務分掌の責任を担い、学校運営を推進する。	高い指導力や豊富な経験を生かし、学校運営を推進する。 (教諭等)	豊富な経験を生かし、広い視野で組織的な学校運営を行う。 (管理職)
教職の素養	A 豊かな人間性	法令やマナーについて理解し、基本的なコミュニケーション力を身に付けている。	教育公務員として法令を遵守し、社会人としてふさわしいマナーやコミュニケーション力を身に付けることができる。自己表現を目指し、学校外の事にも目を向けながら社会性を磨き、幅広い教養を身に付け、業務改善、ワーク・ライフ・バランスの視点を持ちながら、教育活動を展開することができる。			
	B 使命感	教育公務員の使命を理解している。	教職への高い使命感、北九州市への深い理解、社会の変化に対応しながら新たなことに挑戦する姿勢をもち、熱意をもって教育活動を展開することができる。			
	C 人権尊重の精神	人権尊重の精神に基づき、人権に配慮した行動をとっている。	人権尊重の精神に基づき、高い人権感覚をもち、児童生徒、教職員、保護者や地域との信頼関係を構築することができる。			
	D 学校組織の理解と運営	学級担任の役割、学校組織、協働性の意義を理解している。	チーム学校の一員として、学校経営方針に基づいた学級経営の方針を立て、指導することができる。学級事務を正確・丁寧に扱い、効率的に処理することができる。	ミドルリーダーとして、学校経営方針の実現に向けて学校運営に参画することができる。学級事務について、他の教職員に範を示すことができる。	学校運営におけるリーダーとしての役割を自覚し、学校経営方針の実現に向けて学校運営を推進することができる。学級事務について他の教職員に指導・助言を行うことができる。	
	E 自己啓発人材育成	生涯にわたって自ら学び続けることの意義を理解している。	OJT、校外研修、自己啓発を通して、自己の実践力を磨くことができる。	自らも学び姿勢をもちメンターとしてメンティーの課題や悩みに気付き、支援するとともに、支え合える環境づくりに努めることができる。	自らも学び続けながら、自己の経験や専門性を生かし、他の教職員を支援することができる。	
	F 危機管理	様々な問題事例を通して危機管理の重要性を理解している。	問題発生時、迅速かつ適切に対応することができる。安全や教育効果に配慮した環境を整備し、課題について「報告・連絡・相談」を確実に行うことができる。	組織の一員として連携しながら危機を予測し、未然防止を図るとともに、早期対応に努めることができる。	学校全体での情報の共有を推進し、危機を予測し、未然防止を図るとともに、早期対応に努めることができる。	
	G 保護者や地域との連携	保護者や地域との信頼関係の構築等、連携することの重要性を理解している。	保護者や地域との信頼関係を築き、連携することができる。	自分より経験の浅い教職員に範を示しながら、保護者や地域との関わりを深め、連携することができる。	他の教職員に範を示しながら、保護者や地域との関わりを深め、連携することができる。	
学習指導	H 授業構想 授業展開 授業評価・改善	児童生徒の実態把握の必要性や学習指導要領、指導技術の基礎を理解している。授業参観の在り方や、授業者の発問の意図、児童生徒の変容のこらえ方を理解している。	児童生徒の実態を把握した上で、学習指導要領の理解を基に、指導と評価の計画を立て、指導技術の基礎及び応用を踏まえた授業をすることができる。自身の授業を振り返り、課題をつかみ、改善に生かすことができる。優れた授業からよい授業のイメージをもつことができる。	教材研究を通して目指す児童生徒の像をイメージし、指導と評価の一体化を想定し、児童生徒の実態に応じた発展的な授業をすることができる。適切な授業評価を行い、さらなる授業力の向上を図ることができる。優れた授業からよりよい授業のイメージをつくることができる。	学校経営方針に基づいたカリキュラム・マネジメントを行い、授業に臨むことができる。児童生徒の実態に応じたより発展的な授業をすることができる。効果的な指導法の情報や実践を他の教員に発信することができる。主題研究推進の中核として、自校の課題を明らかにし、全職員の授業力向上を推進することができる。	
	I 生徒経営・生徒指導	児童生徒理解の意義や方法、個や集団を指導するための手だてを理解している。	学級一人一人の背景を意識した学級経営を行うことができる。児童生徒に寄り添い、保護者や校内組織等と連携し、生徒指導を行うことができる。	学年の児童生徒を取り巻く環境を的確にとらえた児童生徒理解ができる。学年全体、学校全体の動きを考え、早期発見・早期対応に努め、生徒指導を行うことができる。	学校全体の児童生徒の状況を教職員相互で共通理解できるように働きかけることができる。学年・学校内における諸問題の未然防止に努め、管理職及び校内組織との情報の共有を図り、適切な生徒指導を推進することができる。	
J 特別な配慮や支援を必要とする子どもへの対応	特別な配慮を必要とする児童生徒の特性や支援の意義を理解している。	個別の指導計画等に基づき、児童生徒の特性や実情を踏まえた個に応じた学習上・生活上の指導及び支援ができる。	組織的な連携のもと、個別の指導計画等の改善・充実を図りつつ、個に応じた適切な指導及び必要な支援の工夫ができる。	主体的に関係機関等との連携や校内での連絡調整を図ると、学校全体での指導及び支援を主導することができる。		
K ICTや情報・教育データの利活用	授業や校務へのICT活用に必要な操作方法及び情報活用能力・情報モラルの育成の意義や効果を理解している。	ICT活用や教育データ活用に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、各教科等の特質や学習過程を踏まえてICTを日常的・効果的に活用して、授業を展開することができる。児童生徒の情報活用能力を育成するとともに、情報モラルについて指導することができる。				

管理職の指標は、「北九州市立学校の校長及び教員としての資質向上に関する指標」ステージ4管理職を参照

別表

資質		ステージ4 (管理職)			
		副校長・教頭	校長・園長		
教職の素養	チーム学校・園を支えるマネジメント	A 豊かな人間性	自ら法令遵守の精神の範を示すとともに、他の教職員に指導することができる。 業務改善、ワーク・ライフ・バランスの視点をもった職場を実現することができる。		
		B 使命感	教職への高い使命感、北九州市への深い理解、社会の変化に対応しながら新たなことに挑戦する姿勢をもち、熱意をもって教育活動を展開することができる。		
		C 人権尊重の精神	人権尊重の精神に基づき、高い人権感覚をもち、児童生徒等、教職員、保護者や地域との信頼関係を構築することができる。		
		D 学校・園組織の理解と運営	学校経営課題設定解決	様々なデータ等を収集・分析するなど、アセスメントをもとに学校全体の状況を把握し、校長を補佐して教職員を指導することができる。 学校教育目標に基づき、進展状況を把握し、計画を進めることができる。 学校の中・長期的な学校経営ビジョンを策定し、校長に提案することができる。 次年度の学校経営に生かすために成果と課題を明確にし、校長に進言することができる。	様々なデータ等を収集・分析するなど、アセスメントをもとに学校・園内外の状況を大局的・多面的・多角的に把握し、中・長期的な学校・園経営ビジョンを明確に打ち出し、教育委員会と連携しながら対応策を講じることができる。 課題解決に向けて進展状況を把握し、必要な指導・助言を行うことができる。 成果と課題を把握し、次年度の学校経営に生かすことができる。
			組織管理・運営	学校教育目標達成のために、一人一人の教職員の能力と役割・健康状態・働き方等を把握・理解し、心理的安全性のある協働的な組織運営について進言し、推進することができる。 チーム学校による組織力を高めるために、学校の職員・多様な専門スタッフや保護者・地域・関係機関等の強みを生かし、組織運営を推進することができる。 人権の尊重や生徒指導について、問題事象の未然防止を含め、計画的に行うための情報収集に努め、組織運営を推進することができる。	学校・園教育目標達成のために、一人一人の教職員の能力と役割・健康状態・働き方等を把握・理解し、心理的安全性のある協働的な組織をつくることことができる。 学校・園の職員・多様な専門スタッフや保護者・地域・関係機関等の強みを生かし、チーム学校・園による組織力を高めていくファシリテーションができる。 人権の尊重や生徒指導について、問題事象の未然防止を含め、計画的に行うための組織づくりと運営ができる。
			学校事務・財務管理	学校に係る事務及び対外的な事務を、効率的に処理させ、常に点検することができる。 必要な予算の確保及び執行を確認し、適切な処理が行われるよう、点検することができる。 効果的な事務執行に向けて、校長を補佐し、適切に報告することで改善に努めることができる。	学校・園に係る事務及び対外的な事務が、効率的かつ適切に処理されていることを確認し、適正な状態を保つことができる。 必要な予算の確保及び執行を計画的かつ適切に行うよう、指導することができる。 効果的な事務執行に向けて、報告に基づき、点検・改善することができる。
		E 自己啓発・人材育成	自らも探究心をもって学び続け、校長を補佐して教職員の資質・能力や意欲の向上と学校の活性化を図ることができる。 教職員の模範となるとともに、校長を補佐し、教職員と十分なコミュニケーションをとり、児童生徒への関わりについて把握し、校長へ報告するとともに、全体に指導・助言することができる。 教職員一人一人の個性・特徴やキャリアステージを的確に把握し、面談等に基づいた適切な人事評価及び校内人事について校長を補佐することができる。 ミドルリーダーの適性を見極め、校務分掌が円滑に遂行できるように指導・助言し、業務に対する意欲を高める中で、女性活躍を推進する視点をもち、次世代の管理職を育てることができる。	自らも探究心をもって学び続け、教職員の資質・能力や意欲の向上と学校の活性化を図ることができる。 教職員の模範となるとともに、教職員と十分なコミュニケーションをとり、児童生徒等に適切に関わることができるよう教職員全体に指導・助言することができる。 教職員一人一人の個性・特徴やキャリアステージを的確に把握し、面談等に基づいた適切な人事評価及び校内人事を行うことができる。 教職員が常に学び続けようとする姿勢を育むために、研修履歴等を活用した対話による研修の受講奨励を適切に行うことができる。 ミドルリーダーに中心的な役割を与え、責任ある業務を行わせる中で、積極的に女性活躍を推進する視点をもち、次世代の管理職を育てることができる。	
		F 危機安全管理	保護者や地域・関係諸機関と連携し、校長を補佐しながら児童生徒の安全・安心、学校の危機管理に努めることができる。 管理体制を把握し、緊急の場合に、対応方針に基づいて、適切に教職員を動かすことができる。	児童生徒等の安全・安心、学校・園の危機管理について学校・園体制を整備するとともに、保護者や地域・関係諸機関との協力体制を確立できる。 管理体制が十分であるか常に状況を把握し、緊急の場合に適切に判断し、対応方針を示すことができる。	
		G 保護者・地域等の連携	校長を補佐しながら学校・保護者や地域・関係諸機関と連携・協働し、学校力向上に努めることができる。 校長を補佐して学校内外に対して説明責任を果たし、情報を発信することができる。	保護者や地域・関係諸機関と連携・協働し、学校・園力を高めることができる。 学校・園内外に対して説明責任を果たし、情報を発信することができる。	
		H 学習指導	授業構想 授業展開 授業評価 改善	社会に開かれた教育課程の理念のもと、カリキュラム・マネジメントを行うことができる。 PDCAサイクルに基づく全校体制による校内研究等を通して、教員の授業力の向上を図ることができる。	
I 生徒指導	学級経営・生徒指導	教職員相互で児童生徒等の状況を共通理解できるように環境を整えることができる。 諸問題に対する未然防止対策を講じるとともに、様々な関係機関等と連携した生徒指導を行うことができる。			
J 特別な配慮や支援を必要とする子どもへの対応		関係機関等との連携を確立・強化し、組織的な児童生徒等の理解及び個に応じた指導・支援を推進できる。			
K ICTや情報・教育データの利活用		ICT、情報・教育データ等を組織的に管理し、ICT活用の推進体制を整備することができる。			

※幼稚園においては、「児童生徒等」に「幼児」を含む。また「学習」「授業」は「保育」、「生徒指導」は「幼児理解」とする。

北九州市立学校の養護教諭としての資質の向上に関する指標

資質	ステージ0	ステージ1	ステージ2	ステージ3	ステージ4	
	【教職準備期】	【教職基礎形成期】	【教職資質向上期】	【教職資質充実期】	【教職資質発展期】	
	養護教諭として、職務に対する志を高め、求められる資質・能力の基盤を形成する。	若年養護教諭として、職務に関する基礎的・基本的な資質・能力を形成する。	中堅養護教諭として、主体的に組織運営に関わるとともに、職務に関する専門性を高める。	エキスパート養護教諭として、組織運営を主導するとともに、職務に関する専門的で高度な実践を展開し、指導性を発揮する。	高い指導力や豊富な経験を生かし、学校運営を推進する。 (教諭等)	豊富な経験を生かし、広い視野で組織的な学校運営を行う。 (管理職)
教職の素養	チーム学校を支えるマネジメント	A 豊かな人間性	法令やマナーについて理解し、基本的なコミュニケーション力を身に付けている。			
		B 使命感	教育公務員の使命を理解している。			
		C 人権尊重の精神	人権尊重の精神に基づき、人権に配慮した行動をとっている。			
		D 学校組織の理解と運営	養護教諭の役割、学校組織、協働性の意義を理解している。	チーム学校の一員として、学校経営方針に基づいた保健室経営の方針を立て、指導することができる。保健に関する事務を正確・丁寧に扱い、効率的に処理することができる。	ミドルリーダーとして、学校経営方針の実現に向けて学校運営に参画することができる。保健に関する事務について、他の教職員に範を示すことができる。	学校運営におけるリーダーとしての役割を自覚し、学校経営方針の実現に向けて学校運営を推進することができる。保健に関する事務について他の教職員に指導・助言を行うことができる。
		E 自己啓発人材育成	生涯にわたって自ら学び続けることの意義を理解している。	OJT、校外研修、自己啓発を通して、自己の実践力を磨くことができる。	自らも学び姿勢をもちメンターとしてメンティーの課題や悩みに気付く、支援するとともに、支え合える環境づくりに努めることができる。	自らも学び続けながら、自己の経験や専門性を生かし、他の教職員を支援することができる。
		F 危機管理	様々な問題事例を通して危機管理の重要性を理解している。	問題発生時、迅速かつ適切に対応することができる。安全や教育効果に配慮した環境を整備し、課題について「報告・連絡・相談」を確実に行うことができる。	組織の一員として連携しながら危機を予測し、未然防止を図るとともに、早期対応に努めることができる。	学校全体での情報の共有を推進し、危機を予測し、未然防止を図るとともに、早期対応に努めることができる。危機を予測し、未然に防止する取組と、危機の早期発見・応を組織的に行うことができる。
		G 保護者や地域との連携	保護者や地域との信頼関係の構築等、連携することの重要性を理解している。	保護者や地域との信頼関係を築き、連携することができる。	自分より経験の浅い教職員に範を示しながら、保護者や地域との関わりを深め、連携することができる。	他の教職員に範を示しながら、保護者や地域との関わりを深め、連携することができる。
学校保健の推進	H 保健管理	健康観察、健康診断、救急処置及び疾病の予防・管理等に関する基礎的・基本的な内容を理解できる。	健康観察、健康診断、救急処置及び疾病の予防・管理等を適切に実施できる。	健康観察、健康診断、救急処置、疾病の予防・管理等について、学校全体で取り組むための組織体制を整えることができる。	関係者と連携した組織的な保健管理の充実を図るとともに、指導的役割を果たすことができる。	
	I 保健教育	学校保健安全法、学習指導要領の理念と内容を理解し、保健教育のイメージをもつことができる。	保健教育における養護教諭の役割を理解するとともに、各教科等の特性を踏まえ、個に応じた指導や集団指導を実施することができる。	養護教諭の専門性を生かすとともに、学習指導要領や児童生徒の健康課題に基づき、学習者中心の保健教育を展開することができる。	保健教育の全体計画の立案に積極的に参画し、実践、評価、改善を図るとともに、指導体制を整えて保健教育を推進することができる。	
	J 健康相談・保健指導	学校保健安全法による健康相談・保健指導の位置付け及び発達段階における健康課題とその対応について理解できる。	健康相談・保健指導の基本的プロセスを理解し、児童生徒の心身の健康課題や現代的な健康課題との関連を踏まえた健康相談・保健指導及び必要な支援を実施することができる。	児童生徒の心身の健康課題を的確に捉えるとともに、関係者が連携・協働する組織体制づくりを行い、健康相談・保健指導及び効果的な支援を展開することができる。	児童生徒の心身の健康課題の解決に向け、関係者等との連携・協働におけるコーディネーターの役割と、校内における指導的役割を果たすことができる。	
	K 保健組織活動	保健組織活動や学校保健に関する学校内外の協力体制の重要性を理解できる。	保健組織活動の意義を理解し、関係者等と連携して、児童生徒の健康づくりに取り組むことができる。	保健組織活動の企画・運営に参画し、関係者等と連携して児童生徒の健康づくりを進めることができる。	保健組織活動の活性化を図り、児童生徒の健康づくりを効果的に推進することができる。	
生徒指導	L 児童生徒理解指導・支援	児童生徒指導の意義・重要性を理解できる。	児童生徒を取り巻く環境や発達の状況を理解し、個々の悩みや思いを共感的に受け止めながら、信頼関係を構築し、児童生徒一人一人に向き合うことができる。	児童生徒を取り巻く環境や発達の状況を理解し、よさや可能性を伸ばす姿勢で、児童生徒一人一人に応じた対応を組織的・主体的に行うことができる。	児童生徒一人一人を多面的に理解し、自分らしい生き方の指導を行うとともに、学校・家庭・地域での支援をコーディネートし、主導することができる。	
	M 特別な配慮や支援を必要とする子どもへの対応	特別な配慮を必要とする児童生徒の特性や支援の意義を理解している。	個別の指導計画等に基づき、児童生徒の特性や実情を踏まえた個に応じた学習上・生活上の指導及び支援ができる。	組織的な連携のもと、個別の指導計画等の改善・充実を図りつつ、個に応じた適切な指導及び必要な支援の工夫ができる。	主体的に関係機関等との連携や校内での連絡調整を図るなど、学校全体での指導及び支援を主導することができる。	
N ICTや情報・教育データの利活用	保健管理や保健教育及び校務へのICT活用に必要な操作方法及び情報活用能力(情報モラルを含む)育成の意義や効果を理解している。	ICT活用や健康情報データの活用に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、保健管理や保健教育及び校務に生かすとともに、児童生徒の情報活用能力を育成できる。				

管理職の指標は、北九州市立学校の校長及び教員としての資質向上に関する指標(ステージ4管理職)を参照

北九州市立学校の栄養教諭としての資質の向上に関する指標

資質	ステージ0	ステージ1	ステージ2	ステージ3	ステージ4		
	【教職準備期】	【教職基礎形成期】	【教職資質向上期】	【教職資質充実期】	【教職資質発展期】		
	栄養教諭として、職務に対する志を高め、求められる資質・能力の基盤を形成する。	若年栄養教諭として、職務に関する基礎的・基本的な資質・能力を形成する。	中堅栄養教諭として、主体的に組織運営に関わるとともに、職務に関する専門性を高める。	エキスパート栄養教諭として、組織運営を主導するとともに、職務に関する専門的で高度な実践を展開し、指導性を発揮する。	高い指導力や豊富な経験を生かし、学校運営を推進する。 (教諭等)	豊富な経験を生かし、広い視野で組織的な学校運営を行う。 (管理職)	
教職の素養	チーム学校を支えるマネジメント	A 豊かな人間性	教育公務員として法令を遵守し、社会人としてふさわしいマナーやコミュニケーション力を身に付けることができる。自己実現を目指し、学校外の事にも目を向けながら社会性を磨き、幅広い教養を身に付け、業務改善、ワーク・ライフ・バランスの視点を持ちながら、教育活動を展開することができる。				
		B 使命感	教職への高い使命感、北九州市への深い理解、社会の変化に対応しながら新たなことに挑戦する姿勢をもち、熱意をもって教育活動を展開することができる。				
		C 人権尊重の精神	人権尊重の精神に基づき、高い人権感覚をもち、児童生徒等、教職員、保護者や地域との信頼関係を構築することができる。				
		D 学校組織の理解と運営	チーム学校の一員として、学校経営方針に基づいた食育推進の方針を立て、指導することができる。 栄養に関する事務を正確・丁寧に扱い、効率的に処理することができる。	ミドルリーダーとして、学校経営方針の実現に向けて学校運営に参画することができる。 栄養に関する事務について、他の教職員に範を示すことができる。	学校運営におけるリーダーとしての役割を自覚し、学校経営方針の実現に向けて学校運営を推進することができる。 栄養に関する事務について他の教職員に指導・助言を行うことができる。		
		E 自己啓発人材育成	生涯にわたって自ら学び続けることの意義を理解している。	OJT、校外研修、自己啓発を通して、自己の実践力を磨くことができる。	自らも学ぶ姿勢をもちメンターとしてメンティーの課題や悩み気付く、支援するとともに、支え合える環境づくりに努めることができる。	自らも学び続けながら、自己の経験や専門性を生かし、他の教職員を支援することができる。	
		F 危機管理	様々な問題事例を通して危機管理の重要性を理解している。	問題発生時、迅速かつ適切に対応することができる。 安全や教育効果に配慮した環境を整備し、課題について「報告・連絡・相談」を確実に実行することができる。	組織の一員として連携しながら危機を予測し、未然防止を図るとともに、早期対応に努めることができる。	学校全体での情報の共有を推進し、危機を予測し、未然防止を図るとともに、早期対応に努めることができる。 危機を予測し、未然に防止する取組と、危機の早期発見・応を組織的に行うことができる。	
		G 保護者や地域との連携	保護者や地域との信頼関係の構築等、連携することの重要性を理解している。	保護者や地域との信頼関係を築き、連携することができる。	自分より経験の浅い教職員に範を示しながら、保護者や地域との関わりを深め、連携することができる。	他の教職員に範を示しながら、保護者や地域との関わりを深め、連携することができる。	
学校における食育の推進	H 連携・協力	関係職員等と連携しながら食育を推進することについて理解できる。	食育推進組織に継続的に関わることができる。	校内及び校外の関係者等と連携・協力し、食育推進組織を活用した食育を主体的に推進することができる。	学校教育活動全体を視野に入れ、指導体制を整えて効果的に食育を推進するとともに、食育推進組織の計画、実践、評価、改善を図ることができる。		
	I 教育指導	食に関する指導の授業のイメージをもつことができる。	学校給食や各教科等の特性を踏まえた食に関する指導ができる。	学校給食や各教科等の特性を踏まえ、栄養教諭の専門性を生かした授業を構想し、指導ができる。	学校給食や各教科等の特性を踏まえ、栄養教諭の専門性を生かした授業を構想し、指導性を発揮することができる。		
	J 個別的な相談指導	栄養教諭が行う個別的な相談指導について理解できる。	個別的な相談指導の内容に関する基礎的知識を習得し、指導ができる。	個別的な相談指導の内容に関する専門性を高め、学級担任、家庭等と協力して指導ができる。	個別的な相談指導の内容に関する専門性を高め、学級担任、家庭等と協力して指導性を発揮することができる。		
	K 栄養管理	成長期の栄養管理の方法について理解できる。	年間献立計画と年間指導計画を関連付けることができる。	児童生徒等の栄養摂取量等の実態を把握し、現状について評価し改善を図ることができる。	献立作成や栄養量等の現状把握について、他の栄養教諭に指導・助言ができる。		
	L 衛生管理	学校給食における食中毒や感染症について理解できる。	学校給食衛生管理基準について理解し、的確な作業工程表や作業動線図を作成することができる。	学校給食衛生管理基準に基づき、担当する施設の衛生管理について評価し改善を図ることができる。	学校給食衛生管理基準に基づいた衛生管理について、他の栄養教諭等に指導・助言ができる。		
生徒指導	M 児童生徒理解指導・支援	食に関する児童生徒を取り巻く環境や実態を理解し、他の教職員と情報を共有することができる。また、個々の悩みや思いを共感的に受け止めるとともに児童生徒一人一人に向き合うことができる。	食に関する児童生徒を取り巻く環境や実態を理解し、教職員相互の理解を促進することができる。また、良さや可能性を伸ばす姿勢で支援し、児童生徒一人一人に応じた適切な対応や指導ができる。	食に関する児童生徒を取り巻く環境や実態を踏まえた、学校全体の組織的な取組を促進することができる。また、児童生徒一人一人の様々な状況に応じた適切な対応について指導性を発揮することができる。			
N 特別な配慮や支援を必要とする子どもへの対応	特別な配慮を必要とする児童生徒の特性や支援の意義を理解している。	個別の指導計画等に基づき、児童生徒の特性や実情を踏まえた個に応じた学習上・生活上の指導及び支援ができる。	組織的な連携のもと、個別の指導計画等の改善・充実を図りつつ、個に応じた適切な指導及び必要な支援の工夫ができる。	主体的に関係機関等との連携や校内での連絡調整を図るなど、学校全体での指導及び支援を主導することができる。			
O ICTや情報・教育データの利活用	食に関する指導や給食監理及び校務へのICT活用に必要となる操作方法及び情報活用能力(情報モラルを含む)育成の意義や効果を理解している。	ICT活用や教育データ活用に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、食に関する指導や給食管理及び校務に生かすとともに、児童生徒の情報活用能力を育成できる。					

管理職の指標は、「北九州市立学校の校長及び教員としての資質向上に関する指標」ステージ4(管理職)参照

北九州市立幼稚園の園長及び教員としての資質の向上に関する指標

資質	ステージ0	ステージ1	ステージ2	ステージ3	ステージ4	
	【教職準備期】	【教職基礎形成期】	【教職資質向上期】	【教職資質充実期】	【教職資質発展期】	
	教職現場での実践的課題を見直し、求められる資質の基盤を形成する。	チーム園の一員として教育に関する基礎的・基本的な資質・能力を形成する。	指導(保育)力を発揮し、ミドルリーダーとして主体的に園運営に参画する。	高い指導(保育)力を発揮するとともに、重要な校務分掌の責任を担い、園運営を推進する。	高い指導(保育)力や豊富な経験を生かし、学級(園)運営を推進する。(教諭等) 豊富な経験を生かし、広い視野で組織的な園運営を行う。(管理職)	
教職の素養	A 豊かな人間性	法令やマナーについて理解し、基本的なコミュニケーション力を身に付けている。	教育公務員として法令を遵守し、社会人としてふさわしいマナーやコミュニケーション力を身に付けることができる。自己実現を目指し、園外の事にも目を向けながら社会性を磨き、幅広い教養を身に付け、業務改善、ワーク・ライフ・バランスの視点をもちながら、教育活動を展開することができる。			
	B 使命感	教育公務員の使命を理解している。	教職への高い使命感、北九州市への深い理解、社会の変化に対応しながら新たなことに挑戦する姿勢をもち、熱意をもって教育活動を展開することができる。			
	C 人権尊重の精神	人権尊重の精神に基づき、人権に配慮した行動をとっている。	人権尊重の精神に基づき、高い人権感覚をもち、幼児、教職員、保護者や地域との信頼関係を構築することができる。			
	チーム園を支えるマネジメント	D 園組織の理解と運営	学級担任の役割、園組織、協働性の意義を理解している。	チーム園の一員として、園の経営方針に基づいた学級経営の方針を立て、指導(保育)することができる。学級事務を正確・丁寧に行い、効率的に処理することができる。	ミドルリーダーとして、園の経営方針の実現に向けて園の運営に参画することができる。学級事務について、他の教職員に範を示すことができる。	園運営におけるリーダーとしての役割を自覚し、園の経営方針の実現に向けて園の運営を推進することができる。学級事務について他の教職員に指導・助言を行うことができる。
		E 自己啓発人材育成	生涯にわたって自ら学び続けることの意義を理解している。	OJT、園外研修、自己啓発を通して、自己の実践力を磨くことができる。	自らも学ぶ姿勢を持ちメンターとしてメンティーの課題や悩みに気付く、支援するとともに、支え合える環境づくりに努めることができる。	自らも学び続けながら、自己の経験や専門性を生かし、他の教職員を支援することができる。
		F 危機管理	様々な問題事例を通して危機管理の重要性を理解している。	問題発生時、迅速かつ適切に対応することができる。安全や教育効果に配慮した環境を整備し、課題について「報告・連絡・相談」を確実に行うことができる。	組織の一員として連携しながら危機を予測し、未然防止を図るとともに、早期対応に努めることができる。	園全体での情報の共有を推進し、危機を予測し、未然防止を図るとともに、早期対応に努めることができる。
		G 保護者や地域との連携	保護者や地域との信頼関係の構築等、連携することの重要性を理解している。	保護者や地域との信頼関係を築き、連携することができる。	自分より経験の浅い教職員に範を示しながら、保護者や地域との関わりを深め、連携することができる。	他の教職員に範を示しながら、保護者や地域との関わりを深め、連携することができる。
保育	H 保育構想 保育展開 保育の評価・改善	幼児の実態把握の必要性や幼稚園教育要領、指導技術の基礎を理解している。	幼児の実態を把握した上で、幼稚園教育要領の理解を基に、指導と評価の計画を立て、指導技術の基礎及び応用を踏まえた保育をすることができる。	教材研究を通して目指す幼児の姿をイメージし、指導と評価の一体化を想定し、幼児の実態に応じた発展的な保育をすることができる。	園の経営方針に基づいたカリキュラム・マネジメントを行い、保育に臨むことができる。幼児の実態に応じたより発展的な保育をすることができる。指導法の情報や実践を他の教員に発信することができる。	
		保育参観の在り方や、保育者の保育の支援、幼児の変容の伝え方等を理解している。	自身の保育を振り返り、課題をつかみ、改善に生かすことができる。優れた保育からよい保育のイメージをもつことができる。	適切な保育評価を行い、さらなる保育力の向上を図ることができる。優れた保育からよりよい保育のイメージをつくることができる。	適切な保育の評価と指導計画の改善を組織的・計画的に実践するためのカリキュラム・マネジメントを行い、全職員の保育力向上を推進することができる。	
		I 学級経営・幼児理解	幼児理解の意義や方法、個や集団を指導するための手だてを理解している。	学級一人一人の背景を意識した学級経営を行うことができる。幼児に寄り添い、保護者や園内組織等と連携し、保育を行うことができる。	幼児を取り巻く環境を的確にとらえた幼児理解ができる。各年限、園全体の動きを考え、早期発見・早期対応に努め、組織的な保育を行うことができる。	園全体の幼児の状況を教職員相互で共通理解できるように働きかけることができる。各年限、園内における諸問題の未然防止に努め、園内組織での情報の共有を図り、適切な保育を推進することができる。
J 特別な配慮や支援を必要とする幼児への対応	特別な配慮を必要とする幼児の特性や支援の意義を理解している。		個別の指導計画等に基づき、幼児の特性や実情を踏まえた個に応じた保育及び支援ができる。	組織的な連携のもと、個別の指導計画等の改善・充実を図りつつ、個に応じた適切な保育及び必要な支援の工夫ができる。	主体的に関係機関等との連携や園内での連絡調整を図るなど、園全体での指導及び支援を主導することができる。	
K ICTや情報・教育データの利活用	保育へのICT活用に必要な操作方法及び情報活用能力・情報モラルの育成の意義や効果を理解している。	ICT 活用やデータ活用に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、幼児の実態や保育の内容を踏まえて ICT を日常的・効果的に活用して、保育を展開することができる。幼児の情報活用能力を育成するとともに、情報モラルについて指導することができる。				

管理職の指標は、北九州市立学校の校長及び教員としての資質向上に関する指標(ステージ4(管理職))を参照

北九州市立学校の事務職員としての資質の向上に関する指標

資質	ステージ0	ステージ1	ステージ2	ステージ3	ステージ4		
	【準備期】	【基礎形成期】	【資質向上期】	【資質充実期】	【資質発展期】		
	教育に対する知見を深め、求められる資質の基盤を形成する。	(係員) チーム学校の一員として事務職員の職務を展開し、実践力を磨く。	(主任) 事務の専門性を高め、モデルリーダーとして学校運営に参画する。	(主査)(10年目以上の主任) 重要な校務分掌の責任を担い、学校運営を推進する。	(事務長) 豊富な経験を生かし、学校運営を推進する。	(管理職) 豊富な経験を生かし、広い視野で組織的な学校運営を行う。	
事務職の素養	チーム学校を支えるマネジメント	A 豊かな人間性	公務員として法令を遵守し、社会人としてふさわしいマナーやコミュニケーション力を身に付けることができる。自己実現を目指し、学校外の事にも目を向けながら社会性を磨き、幅広い教養を身に付け、業務改善、ワーク・ライフ・バランスの視点を持ちながら、教育活動を支援することができる。				
		B 使命感	公務員の使命を理解している。事務職員としての高い使命感、北九州市への深い理解、社会の変化に対応しながら新たなことに挑戦する姿勢をもち、熱意をもって教育活動を支援することができる。				
		C 人権尊重の精神	人権尊重の精神に基づき、高い人権感覚をもち、児童生徒等、教職員、保護者や地域との信頼関係を構築することができる。				
	D 学校組織の理解と運営	学校組織や校務分掌とともに、事務職員の役割と職務内容を理解している。	学校の教育目標・重点目標を理解し、その具現化に向け、事務職員として、予算計画等に基づき、実践することができる。	学校組織マネジメントの意義を理解し、事務職員の立場から組織運営に主体的に参画することができる。	学校運営の持続的な改善に向け、事務職員の立場からビジョンの策定やプランの構築及びその具現化を主導することができる。		
	E 自己啓発人材育成	生涯にわたって自ら学び続けることの意義を理解している。	OJT、校外研修、自己啓発を通して、自己の実践力を磨くことができる。	自らも学ぶ姿勢をもち、メンターとしてメンティーの課題や悩みに気づき、支援するとともに、支え合える環境づくりに努めることができる。	自らも学び続けながら、自らの経験や専門性を生かし、他の教職員を支援することができる。	課題解決できる支援環境を作り、推進することができる。	
	F 危機管理	様々な問題事例を通して危機管理の重要性を理解している。	問題発生時、迅速かつ適切に対応することができる。安全や教育効果に配慮した環境を整備し、課題について「報告・連絡・相談」を確実に行うことができる。	組織の一員として連携しながら危機を予測し、未然防止を図るとともに、早期対応に努めることができる。	学校全体での情報の共有を推進し、危機を予測し、未然防止を図るとともに、早期対応に努めることができる。		
	G 保護者や地域との連携	保護者や地域との信頼関係の構築等、連携することの重要性を理解している。	保護者や地域との信頼関係を築き、連携することができる。	自分より経験の浅い教職員に範を示しながら、保護者や地域との関わりを深め、連携することができる。	他の教職員に範を示しながら、保護者や地域との関わりを深め、連携することができる。	学校内外の情報を基に、ニーズに応じた成果や課題を広く学校内外へ発信し、積極的に連携することができる。	
実践力	H 人事・給与・福利厚生	人事・サービス・給与・旅費事務の重要性について理解している。学校における福利厚生について理解している。	人事・サービス・給与・旅費に関する実務を習得している。公立学校共済組合・互助会・公務災害・被服に関する実務を習得している。	人事・サービス・給与・旅費事務について迅速・適切に処理している。公立学校共済組合・互助会・公務災害・被服について適切な処理を行い、教職員へ助言を行っている。	人事・サービス・給与・旅費事務について迅速・適切に処理し、教職員へ指導・助言を行っている。公立学校共済組合・互助会・公務災害・被服について適切な処理を行い、教職員へ指導・助言を行っている。	課題等について、関係機関と連携をとりながら総合的な判断を行い、地域において指導・助言を行っている。	
	I 総務	学校における情報管理・文書管理の重要性について理解している。	学校の情報管理・文書管理・調査統計に関する実務を習得している。	学校の情報管理・文書管理・調査統計・監査・検査について適切な処理を行い、管理方法等について助言を行っている。	学校の情報管理・文書管理・調査統計・監査・検査について適切な処理を行い、管理方法等について指導・助言を行っている。		
	J 財務	学校における財務管理・備品管理の重要性について理解している。	学校予算・財務管理・備品管理に関する実務を習得している。	学校予算・財務管理・備品管理について適正に処理し、教職員へ助言や支援を行っている。	学校予算・財務管理・備品管理について適正に処理し、教職員へ指導や支援を行っている。		
	K 学務	学校における学務の重要性について理解している。	児童生徒の転出入・学籍・就学援助・教科書事務に関する実務を習得している。	児童生徒の転出入・学籍・就学援助・教科書事務について適切な処理を行い、教職員へ助言を行っている。	児童生徒の転出入・学籍・就学援助・教科書事務について適切な処理を行い、教員等へ指導・助言を行っている。		
	L 教育活動支援	教育活動支援の意義を理解している。	学校の方針や管理職の指示に沿って教育活動支援を行うことができる。児童生徒に寄り添い、保護者や校内組織等と連携し、関わることもできる。児童生徒を取り巻く環境、教育活動について理解し、一人一人の特性やニーズに応じた教育環境整備を推進することができる。				
M ICTや情報・教育データの利活用	校務へのICT活用に必要な操作方法及び情報活用能力の意義や効果を理解している。	ICT活用や教育データ活用に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、総務、財務等の観点からデータを整理・分析し、学校運営の推進に活用できる情報として発信できる。					

管理職の指標は、「北九州市立学校の校長及び教員としての資質向上に関する指標」ステージ4(管理職)を参照